



テニスも人生も挑戦をやめてはいけない

テニスの4大大会で20度優勝したロジャー・フェデラーさん(41、スイス)に子どもたちへのメッセージをもらった。

◇ 僕だって常に勝ち続けていたわけではない。すごくつらい敗北もあった。

若いとき、思うような結果が出ずに悩むことは、誰にでもある。今、そうした試練に直面している人に助言するとしたら、誠実に努力を続けてみようというシ

フェデラーさん 子どもたちへメッセージ

ンプルなメッセージだ。

勤勉な努力は、いずれ成功に導いてくれると信じていることだ。もちろん、時に人生は残酷な面もある。必ずしも努力が報われるわけではない。けがや故障でプレーができなことがある。リハビリに励んでも、体が思う通りに動かないケースはある。

そんなとき、少し視野を広く持つことをすすめた。年齢を重ねるにつれてハードワークを通じて学ん

だことはきつと生きてく

る。人生の果実となることに気づく。テニス選手なら、それはコートでの成績かもしれないし、もしかしたら、全く違う分野かもしれない。最終的な到達地点というか、目標を頭に入れておくことだ。今、僕は41歳で、若いみなさんより経験を積んだから、そう思えるのかもしれないけれど。

若いときは、すごくつらくて逃げ出したいと思う瞬間があると思う。僕も14歳

のとき、実家を出てテニスのナショナルアカデミーで寮生活をしたときは、ホームシックになった。でも、これは人生の大切なステップだという覚悟があった。

試合で負けるのはつらい。負けて、負けて、負けて。そんなときでも、挑戦をやめてはいけない。逃げ出さずに努力を続ければ、いつか流れは変わる。

テニスでも、人生でも。僕の言葉を信じてほしい。(聞き手・稲垣康介)